陸連時報

2014 平成26年 1月号

題字は平沼亮三（初代陸連会長）の書

目　　次

強化関連情報
第1回パリ駅伝報告（強化副委員長　木内敏夫）…… 166
2013国際千葉駅伝を終えて（強化副委員長　酒井勝充）…… 167
ナショナルリレーチーム発足…… 169
第16回アジアジュニア陸上競技選手権大会（2014／台北）日本代表選手選考要項
第15回世界ジュニア陸上競技選手権大会（2014／ユージーン）日本代表選手選考要項 …… 170
2013年度U-16陸上競技指導者中央研修会報告（普及育成委員会　舟橋昭太）…… 171
第9回全国小学生陸上競技交流大会優秀選手「研修会」報告（普及育成委員会　井筒紫乃）…… 172
AIMS理事会報告（AIMS理事　澤木啓祐）…… 174
IAAF RDC北京 IAAF自転車計測員セミナー参加報告
（施設用器具委員会全国区域技術役員　大聖陽平）…… 175
2013年度「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」の開催について
（事務局）…… 176
大会観戦ガイド…… 178
陸協NEWS…… 180
事務局からのお知らせ…… 182

公告

「陸連時報」は公益財団法人日本陸上競技連盟定款第4条第6号の「機関誌」の性格を有するものでありますが、毎月「陸上競技マガジン」と一体として発行しています。陸上競技に関する啓発記事のほか、必要に応じて、評議員会、理事会の決定事項、各専門委員会、事務局からの報告、通達も掲載いたします。本時報に掲載した通達は、公式に通達したものと取扱わさせていただきますので、登録競技者は本時報の掲載内容にご注意下さい。また、陸上競技指導者の方は、所属競技者にお知らせ下さるようお願い致します。

公益財団法人日本陸上競技連盟

強化関連情報

強　化　委　員　会

第１回パリ駅伝報告

強化副委員長　木内　敏夫

１．派遣選手団

役員：木内敏夫（日本陸連強化副委員長）、西村功（宮崎銀行）、亀鷹律良（NTN）、村田亜由美（日本陸連トレーナー部委員）、山田真理子（日本陸連事務局）

選手（男子）：笹沼悠司（NTN）、難波祐樹（大分東明高教員）、千葉健太（富士通）、田中飛鳥（富士通）

選手（女子）：亀井久美子（デンソー）、安藤友香（時之栖）、中村祐希（宮崎銀行）、新地楓（宮崎銀行）

２．大会日程と概要

１）大 会 名　第１回パリ駅伝
２）大会日程　2013年11月３日（日）９：00スタート
３）主　　催　フランス陸上競技連盟
４）後　　援　パリ市
５）コ ー ス　パリ市庁舎スタート・ゴールのセーヌ川沿い周回コース42.195km（IAAF.FFA公認コース）
６）チーム構成　１チーム６名または４名（男子、女子、男女混成可）
　１チーム　６名　１区5.25km／２区10.5km／３区5.25km／４区10.5km／５区5.25km／６区5.445km
　１チーム　４名　１～３区10.5km／４区10.695km

３．渡航日程

10月30日（水）　前泊・結団式
10月31日（木）　AF-275便
　12：55成田発　17：15パリ着
11月 1日（金）　現地調整
11月 2日（土）　現地調整／前夜祭
11月 3日（日）　第１回パリ駅伝
　９：00スタート　12：30表彰式
11月 4日（月）　AF-278便
　23：20パリ発
11月 5日（火）　19：25成田着

４．目標

タイム的にはチームゴールタイムを２時間10分以内、個人の部では女子は５kmを16分00秒程度、10kmを33分00秒程度として男子は５kmを14分30秒程度、10kmを29分00秒程度というペースを目標値とした。また選手として社会人としてこの大会で経験する全てを人生の糧にして今後に生かしてほしいことを伝えた。大会では友好と親善の相互の交流を深めてスマイルを強調し、大会派遣期間中の自己管理と自己責任を徹底させた。

５．結果リザルト

優勝　日本　２時間15分14秒
　１区（5.25km）難波　祐樹 15分12秒（区間１位）
　２区（10.5km）笹沼　悠司 32分09秒（区間１位）
　３区（5.25km）中村　祐希 18分06秒（区間２位）
　４区（10.5km）安藤　友香 35分08秒（区間２位）
　５区（5.25km）千葉　健太 15分43秒（区間１位）
　６区（5.445km）亀井久美子18分59秒（区間13位）
２位　日本フランス友好チーム　２時間27分43秒
　※４区間
　２区（10.5km）田中　飛鳥 33分08秒（区間１位）
　４区（10.65km）新地　楓　41分02秒（区間28位）

６．大会を振り返って

区間配置など、日本とは違う形式で行われ、区間についても男子のみ、女子のみ、男女混成のチームが同時に走る大会であった。結果、参加チーム240チーム中、日本チームは優勝、フランスとの友好チームも２位でゴールした。

パリ滞在中の天候は毎日雨に見舞われ、気温は15～17℃程度であった。11月１日の朝練習でセーヌ川沿いのコースを、ポイント練習はグラウンドが祭で手配が出来ずロードで実施し、11月２日のポイント練習は市内の公共のグラウンドで実施した。

大会当日の天候は、晴れたものの風が強く、気温12～13℃程度で特に女子には厳しい状況であった。区間オーダーは事前の選手とのミーティングと亀鷹、西村両コーチと相談し決定した。

11月１日に市庁舎広場会場テントにフランス陸連を表敬訪問して、日本チームの招待のお礼や開催の経緯、11月23日に日本で行われる、国際千葉駅伝や今後の日本とフランスの協力関係についてお話をした。

その際に、突然ではあったが、日本チームの補欠の選手とフランスチームの友好チームで出場できないかとの提案があり、喜んでと返事をさせていただいた。選手にはホテルに帰ってからの事後報告となったが、補欠の予定であった田中、新地の両選手は、対応の難しい中を良く走ってくれた。

フランスでは、すでに各地方で駅伝と呼ばれるロードリレー形式の大会が開催されており、フランス陸連としても２年程前からパリ市内で駅伝を開催する構想を持っていたとのことであった。今年、フランス陸連は日本陸

連とパートナー協定を締結したこともあり、日本由来の駅伝をパリ市内で是非実現したかったとのことであった。

今後も、このパートナー協定の締結を機に、様々な形で発展的な関係を継続できるものと期待したい。

2013国際千葉駅伝を終えて

強化副委員長　酒井　勝充

日時：2013年11月23日（土）

場所：千葉県総合スポーツセンター陸上競技場スタート
日本陸上競技連盟公認マラソンコース
（42.195km）

総合成績　２位　２時間07分13秒

区間（距離）	氏名	所属	区間順位	通過順位	タイム
１区（５km）	大迫　傑	早稲田大学	４位	４位	13分48秒
２区（５km）	菊池　理沙	日立製作所	６位	５位	16分03秒
３区（10km）	宇賀地　強	コニカミノルタ	２位	３位	28分07秒（区間新記録）
４区（５km）	尾西　美咲	積水化学	３位	２位	15分53秒
５区（10km）	佐藤　悠基	日清食品グループ	７位	３位	30分10秒
６区（7.195km）	岡　小百合	ダイハツ	２位	２位	23分12秒
補欠	窪田　忍	駒澤大学			
補欠	井原　未帆	積水化学			

【レース経過】

１区）大迫選手は２kmを５分20秒の速いペースで通過。その後エブヤ選手（ケニア）がさらにペースを上げると耐えきれず2.8km付近で先頭集団から遅れだした。懸命に力走していたが６日前に出場した記録会の疲労のためか、後半伸びずトップから17秒遅れの４位で中継。現在好調である村山謙太選手（日本学生選抜）からも８秒の遅れをとった。

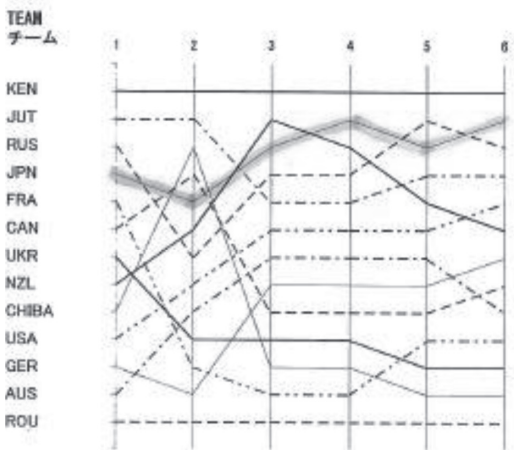
２区）日本代表初の菊池選手は、緊張と焦りの影響かオーバーペースと云える１kmを２分50秒ぐらいのハイペースで先頭を追走。中間点を７分30秒で通過し、先頭との差を徐々に詰めた。しかし、３km以降スピードが鈍りゴール手前ではシフエンテス選手（カナダ）に抜かれ、トップから46秒遅れの５位で中継。区間賞を獲得した鈴木亜由子選手（日本学生選抜）からも40秒と遅れをとった。

３区）予想外の順位でタスキを受けた宇賀地選手は、区間賞を獲得したロバートソン選手（ニュージーランド）と共に１km ２分36秒というハイペースで序盤から飛ばした。その後も速いペース（２分50秒以内）を維持し、５kmを13分43秒で通過。終盤も大きくペースを落とすことなく区間新記録を１秒更新する快走でチーム順位を２位に引き上げケニアに８秒差まで追走した。

4区）トップのケニアから８秒遅れでタスキを受けた尾西選手は、差を５秒まで詰める積極性を見せトップを狙える位置まで追い込んだ。しかし、３km以降にスピードが上がらず徐々に離され14秒差で中継。区間賞を獲得した大森菜月選手（日本学生選抜）の力走が光った。

５区）落ち着いて序盤の入りをしていた様に見えた佐藤選手であったが、途中お腹を押さえるなど体調に変化が生じた。いつもの佐藤選手であれば

POSITION MOVEMENT（順位変動表）



RNK 順位	No. ナンバー	TIME タイム	TEAM チーム
1	5	2:03:59	KEN
2	11	2:07:13	JPN
3	8	2:07:22	RUS
4	12	2:08:03	JUT
5	10	2:08:31	USA
6	6	2:08:57	NZL
7	4	2:11:16	GER
8	2	2:11:30	CAN
9	1	2:11:54	AUS
10	3	2:13:16	FRA
11	9	2:14:49	UKR
12	13	2:15:50	CHIBA
13	7	2:17:24	ROU

中盤以降、軽やかなフォームでスピードを維持するのであるが一向にペースが上がらず本来の走りが出来ず、順位を１つ下げ３位で中継。服部勇馬選手（日本学生選抜）が踏ん張り３秒差まで追い込んできた。

６区）トップのケニアから２分25秒と大きく差を広げられ最大の目標が２位死守となった。その中で岡選手は､前を走るレベデワ選手（ロシア）とデットヒートを繰り広げ、終盤の登り坂で抜け出し２着でゴールした。最終区まで日本代表チームに肉薄し４位に入賞した日本学生選抜チームの力走が光った。

【総評】

今回の日本代表チームは、世界陸上モスクワ大会に出場し､男子10000ｍ15位の宇賀地選手を始め４選手（男：３、女：１）を中心に日本代表初の２名のメンバーで４大会ぶりの優勝を目指した。　チームの結束力を高めるために昨年より入村を早め、区間最終エントリー前に集合しメンバーの意識を高めた。

また、今大会に臨むにあたってチームメンバーに３つの事をお願いした。

（１）日本代表としてふさわしい言動をとる事。

（２）積極的にレースに挑み、後悔の無いレースをする事。

（３）世界の舞台で戦う為には、自立、自律が大事であり、自己判断を重視し行動する事。

結果的には、ケニアチームに大差を付けられ定位置の２位に留まってしまった。

原因を分析してみると、直前の記録会（5000ｍ）で自己記録を更新し､力を出しつくした感のある大迫選手。

宇賀地選手

岡選手

マラソンに向けた準備をしている宇賀地選手、佐藤選手。駅伝レースが続いた菊池選手、尾西選手等が万全の体調でなかった事が挙げられる。しかし、宇賀地選手の好記録の背景には、ロバートソン選手と積極的に競り合いトップを追走出来たこととマラソン練習を積むことにより地力（スタミナ）が強化されたことが快走につながったと考えられる。駅伝は、トラックレースと違い基本的には、１区以外の走者は、タスキを受け取った瞬間から全力で駆けださなければならない要素が高い競技である。日本国内のトラックレースを考察すると勝負を意識しすぎてしまい、前半は抑え気味でレースを進め、終盤に勝ちにいくためにペースアップが必要になる傾向が多い。また、ペースメーカーを置き一定のペースで走り抜き好タイムを求める傾向が高く『世界』を見据えたアグレッシブな挑戦が少ないように考えられる。日常から『世界』に向けての意識が高ければケニアチームとの実力差はあるが、もっと良い戦いが出来たと考えられる。今後は、この駅伝が世界と戦う場であり、国際経験を積める場所であるという事の重要性を指導者をはじめ選手に説き、来年度の大会では、明るい話題を提供できるようにしたい。近年の日本学生選抜チームは力が充実しており、日本代表チームも前半リードを許す展開となった。この背景には、大八木監督（駒澤大学）、渡辺監督（早稲田大学）、酒井監督（東洋大学）をはじめとする男子指導者が、学生時代から『世界と戦う』と云う意識の高さが選手のレベルアップになっていると考える。女子については、大学への進学率が上がり高校時代に活躍した選手の多くが、ユニバーシアード、学生駅伝の活躍を目標にしていることがレベルアップにつながっていると考える。また十倉ヘッドコーチ（立命館大学）をはじめとする多くの女子指導者の尽力を忘れてはならない。今後の長距離マラソン界を支えていくのは学生をはじめとする若い世代である。目標を『世界』に定め益々活躍し、日本陸上界全体に刺激を与えてほしい。

ナショナルリレーチーム発足

12月２日、2014年５月に開催の第１回世界リレー選手権大会の代表候補となるナショナルリレーチームの発足を発表しました。メンバーは下記の通りです。

■男子　24名

〈4×100mリレー〉

氏名	フリガナ	所属	
山縣　亮太	ヤマガタ・リョウタ	広　島	慶應義塾大学
桐生　祥秀	キリュウ・ヨシヒデ	京　都	洛南高校
塚原　直貴	ツカハラ・ナオキ	東　京	富士通
川面　聡大	カワツラ・ソウタ	東　京	ミズノ
大瀬戸一馬	オオセト・カズマ	福　岡	法政大学
九鬼　　巧	クキ・タクミ	和歌山	早稲田大学
江里口匡史	エリグチ・マサシ	大　阪	大阪ガス
小池　祐貴	コイケ・ユウキ	北海道	立命館慶祥高校
飯塚　翔太	イイヅカ・ショウタ	静　岡	中央大学
小林　雄一	コバヤシ・ユウイチ	三　重	NTN
髙瀬　　慧	タカセ・ケイ	千　葉	富士通
藤光　謙司	フジミツ・ケンジ	神奈川	ゼンリン
髙平　慎士	タカヒラ・シンジ	千　葉	富士通
ケンブリッジ　飛鳥	ケンブリッジ・アスカ	東　京	日本大学
橋元　晃志	ハシモト・アキユキ	鹿児島	早稲田大学

〈4×400mリレー〉

氏名	フリガナ	所属	
金丸　祐三	カネマル・ユウゾウ	徳　島	大塚製薬
山﨑　謙吾	ヤマサキ・ケンゴ	埼　玉	日本大学
石塚　祐輔	イシツカ・ユウスケ	茨　城	ミズノ
渡邉　和也	ワタナベ・カズヤ	宮　城	チームミズノ
廣瀬　英行	ヒロセ・ヒデユキ	神奈川	富士通
小林　直己	コバヤシ・ナオキ	神奈川	東海大学
加藤　修也	カトウ・ノブヤ	静　岡	浜名高校
木村　　淳	キムラ・ジュン	沖　縄	中央大学
油井　快晴	ユイ・カイセイ	静　岡	浜松市立高校

■女子　14名

〈4×100mリレー〉

氏名	フリガナ	所属	
福島　千里	フクシマ・チサト	北海道	北海道ハイテクAC
渡辺　真弓	ワタナベ・マユミ	福　島	東邦銀行
土井　杏南	ドイ・アンナ	埼　玉	埼玉栄高校
北風　沙織	キタカゼ・サオリ	北海道	北海道ハイテクAC
神保　祐希	ジンボ・ユウキ	石　川	金沢二水高校
世古　　和	セコ・ノドカ	三　重	筑波大学
藤森　安奈	フジモリ・アンナ	東　京	青山学院大学
木村　　茜	キムラ・アカネ	滋　賀	大阪成蹊大学

〈4×400mリレー〉

氏名	フリガナ	所属	
杉浦はる香	スギウラ・ハルカ	静　岡	浜松市立高校
大木　彩夏	オオキ・サヤカ	群　馬	新島学園高校
青木沙弥佳	アオキ・サヤカ	福　島	東邦銀行
青山　聖佳	アオヤマ・セイカ	島　根	松江商業高校
千葉　麻美	チバ・アサミ	福　島	東邦銀行
神保　祐希	ジンボ・ユウキ	石　川	金沢二水高校
田村　友紀	タムラ・ユキ	岩　手	岩手大学

＊神保　祐希選手は両リレーにて選出

第16回アジアジュニア陸上競技選手権大会（2014／台北）日本代表選手選考要項

１．編成方針

U19からリオデジャネイロ、又は東京オリンピックでの活躍が期待できる競技者から編成する。また、若手競技者における国際競技会経験を高める場とし、国際競技

者として育成する。

2．選考競技会

・2014年度高校総体各都道府県予選およびその予選大会
・2014年度日本グランプリシリーズ（兵庫・和歌山・広島・静岡）及びゴールデングランプリ
・2014年度地区学生陸上競技対校選手権大会
・2014年度地区実業団陸上競技選手権大会

※ただし、選考委員会前に終了した大会までを対象とする。

3．選考基準

（1）選考競技会で、強化育成部が定めた派遣設定記録を突破した競技者
（2）強化育成部員が推薦し、本大会で活躍が期待される競技者
（3）育成と普及に配慮して、各ブロックの極端な人数格差がないようする。

4．選考方法

以下の優先順位に基づいて選考する。

（1）選考競技会で、強化育成部が定めた派遣設定記録を満たした競技者
（2）選考競技会以外の競技会で派遣設定記録を満たした競技者
（3）強化育成部員が推薦した競技者から、将来日本代表選手として活躍が期待される競技者
（4）（1）から（3）の方法で当てはまらない該当競技者がいた場合は、専務理事および強化委員会幹部と協議する。

5．補足

（1）各種目２名まで出場可能。（エントリーは最大３名）
（2）対象者は1995年、1996年、1997年、1998年生まれ。
（3）本大会は、2014年６月12日から15日まで台北（台湾）で開催される。
（4）エントリールールの詳細は、大会組織委員会からの発表後に公表する。

第15回世界ジュニア陸上競技選手権大会（2014／ユージーン）日本代表選手選考要項

1．編成方針

U19からリオデジャネイロ、又は東京オリンピックでの活躍が期待できる競技者から編成する。また、若手競技者における国際競技会経験を高める場とし、国際競技者として育成する。

2．選考競技会

・2014年度全国高校総体都道府県予選
・2014年度全国高校総体各地区予選
・2014年度地区学生陸上競技対校選手権大会
・2014年度地区実業団陸上競技選手権大会
・2014年度日本学生陸上競技個人選手権大会
・第53回全日本競歩輪島大会　男女10kmジュニア競歩
・日本ジュニア選手権混成大会
・第16回アジアジュニア選手権大会（台北／2014）
・第98回　日本陸上競技選手権大会
・2014年度日本グランプリシリーズ（和歌山・兵庫・広島・静岡）及びゴールデングランプリ
・第２回ユースオリンピック競技大会アジア地域予選（バンコク／2014）

※高校総体実施種目以外の選考は、別途指定予定。

3．選考基準

（1）選考競技会で、強化育成部が定めた派遣設定記録を突破した競技者
（2）IAAFが定めた参加標準記録を突破している競技者
（3）強化育成部員が推薦し、将来日本代表選手として活躍が期待される競技者
（4）育成と普及に配慮して、各ブロックの極端な人数格差がないようする。

4．選考方法

以下の優先順位に基づいて選考する。

（1）選考競技会で、強化育成部が定めた派遣設定記録を満たした競技者
（2）選考競技会以外の競技会で派遣設定記録を満たした競技者
（3）強化育成部員が推薦した競技者から、将来日本代表選手として活躍が期待される競技者
（4）（1）から（3）の方法で当てはまらない該当競技者がいた場合は、専務理事および強化委員会幹部と協議する。

5．補足

（1）各種目参加標準記録を満たした選手で、２名まで出場可能。（エントリーは最大３名）
（2）2013年10月１日～2014年7月14日までを参加標準記録有効期間とする。
（3）対象者は1995年、1996年、1997年、1998年生まれ。
（4）800mまでは手動の記録は認められない。
（5）競歩はロードでの記録も認められる。
（6）本大会は、2014年7月22日から27日までユージーン（アメリカ）で開催される。

2013年度U-16陸上競技指導者中央研修会報告

普及育成委員会　舟橋　昭太

2013年度U-16陸上競技指導者中央研修会を、11月4日（祝・月）に味の素ナショナルトレーニングセンター陸上競技場で開催した。この研修会は、中学校における陸上競技部の減少・陸上競技指導者不足が近年叫ばれている中、陸上競技初心者を指導できる指導者育成、陸上競技の底辺の拡大を目指し、基本的な理論や日常での練習方法を学ぶ目的で行っている。

中央研修会は、関東近県を対象にしているが全国から応募があり22名の参加者で研修を行った。

講師は、繁田進（普及育成委員長）、沼澤秀雄（普及育成委員会委員）、渡邊將司（普及育成委員会委員）が務めた。内容は、理論講習と実技（ハードル・走高跳・砲丸投）を行った。

開校式では、繁田普及育成委員長の挨拶、講師・スタッフの紹介をして参加者の自己紹介を行った。

理論講習は、繁田氏が担当し、「競技育成プログラム」と「安全対策ガイドブック」を使い、小学生からトップ選手までの育成強化についてと指導するにあたっての安全対策について、ポイントを押さえ約60分行った。その後、15分間受講生にウオーミングアップを行ってもらい実技講習を行った。

ハードルは、沼澤氏が担当した。腕と脚のコーディネーションの練習と軸を意識しながら、リード脚・抜き脚等をフレキハードルや小学生用ハードルを使用し技術的なつまずきや改善方法等の説明・模範を行った。参加者も同じように動きや技術的な難しさなどを体験した。

走高跳は、繁田氏が指導を担当した。参加者で二人組を作り、お互いに見合いながらの指導を行った。初めて走高跳を始める中学生を対象にした練習として踏み切りの姿勢、軸を意識した跳躍、はさみ跳びの教え方の基本ドリルを行い、背面跳びの基本的なドリルや指導方法、指導のポイントを数多く紹介した。

砲丸投は、渡邊氏が指導を担当した。体重移動と腰の回転を意識しながらメディシンボールを使用した基本的な投げ方、砲丸投の突きだし、立ち投げ、構え方、グライド投法のドリルを数多く紹介し、参加者に砲丸を投げてもらった。ボーテックスやターボジャブも経験してもらった。

受講生の怪我を心配したが、怪我もなく３種目ともビデオを撮影しながら自ら動き、内容を忘れないうちにノートに整理するなど真剣さが伝わってきた。

閉講式の時に受講生に感想を聞いたが「中学１年生から高校３年生までを指導しているが、やはり基本が大切であることを再認識させてもらいました。今後の指導に役立てていきたい」「昨年も受講したが、新しいことを教えていただいたので今後に生かしていきたい」「教え子が、来年全国大会に出場したいと希望しているが、自分は陸上競技をやったことがないので、今回受講して多くのものを学べました。勉強して生徒の力になりたいと思っている」など、いろいろな感想を頂いた。

中学校の部活動は、顧問の高齢化・生徒数の減少等で廃部に追い込まれたり、活動したくても部活がなかったり、指導者がいなかったりと、さまざまな問題を抱えている。この研修で学んだ先生方の教え子たちが2020年東京オリンピックに出場できたら素晴らしいことだと思う。

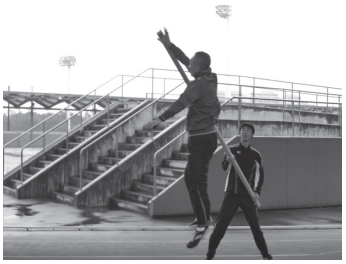
表　2013年度　U-16陸上競技指導者講習会　開催会場一覧

都道府県	開催日	開催会場
千　葉	2013年10月17日（木）	千葉県総合スポーツセンター陸上競技場
青　森	2013年11月2日（土）	青森県総合運動公園陸上競技場
中央（東京）	2013年11月4日（祝・月）	味の素ナショナルトレーニングセンター
愛　媛	2013年11月9日（土）	愛媛県総合運動公園陸上競技場
宮　城	2014年2月8日（土）	宮城スタジアム
熊　本	2014年2月22日（土）	うまかな・よかなスタジアム

※中央（東京）開催以外の開催会場につきましては、開催道府県陸上競技協会にお問い合わせください

理論講習会

ハードル


走高跳

砲丸投

第9回全国小学生陸上競技交流大会優秀選手「研修会」報告

普及育成委員会　井筒　紫乃

“日清食品カップ”第29回全国小学生陸上競技交流大会（2013年８月23～24日・日産スタジアム）決勝進出者の中から優秀選手を選出し、将来の有望選手としての意識・意欲（モチベーション）づけと、その指導者に陸上競技の一貫指導（発育発達に応じた指導）の重要性を理解してもらうために、日産スタジアム（神奈川県横浜市）で開催中であった「第44回ジュニアオリンピック陸上競技大会兼第97回日本陸上競技選手権リレー競技大会」を観戦するとともに、研修会ならびに選手の体力・陸上競技に関する測定を実施し、予定通り無事終了することができた。実施内容を以下のとおり報告する。

１．日程および場所

2013年10月26日（土）～27日（日）１泊２日

26日：横浜市スポーツ医科学センター（形態および体力測定）、新横浜プリンスホテル（測定結果説明および交流会）

27日：新横浜プリンスホテル（選手：栄養研修会および交流会、指導者：情報交換会）、日産スタジアム（「第44回ジュニアオリンピック陸上競技大会兼第97回日本陸上競技選手権リレー競技大会」観戦）

２．参加者

「“日清食品カップ”第29回全国小学生陸上競技交流大会」における決勝進出者の中から６年100m（男子８名・女子４名）・80mH（女子３名）を選出し、選抜された15名の選手と、それぞれの選手の指導者15名、総計30名が参加した（参加者名簿参照）。費用は、公益財団法人日本陸上競技連盟（以下、日本陸連）が全額を負担（招待）した。なお、参加者には事前に「中学校で継続して陸上競技を行う」「将来オリンピック選手になりたいという意欲（高いモチベーション）を持っているもの」「５・６年生の新体力テストの結果の提出と今後日本陸連の調査等に協力できること」を条件として打診し、全参加者から理解が得られた。

〈参加者名簿〉

	種目	都道府県名	選手氏名	指導者氏名
男子	男子6年100m	香　川	市原　涼雅	市原　加奈
		栃　木	田崎　義規	田崎　年子
		福　岡	服部　元軌	加隈　基嗣
		神奈川	小出　大	久家　太希
		秋　田	熊田　清琉	加茂谷　修佳
		京　都	大見　剛正	谷川　裕生
		千　葉	流石　皐太郎	磯野　弘典
		福　島	小野　滉太	小野　修司
女子	女子6年100m	北海道	町井　愛海	町井　真吾
		秋　田	浅井　咲来	木村　勉
		長　野	田村　純菜	塩野入　良夫
		鹿児島	下田　稚奈	遠矢　慎一
	女子6年80mH	岐　阜	安達　楓恋	星野　広典
		東　京	清水　羽菜	川口　博正
		静　岡	大橋　萌加	久能　浩

３．役員および講師

〈ゲスト講師〉

・飯塚翔太選手（中央大学）’13世界陸上モスクワ日本代表

・山縣亮太選手（慶應義塾大学）’13世界陸上モスクワ日本代表

〈栄養研修会講師〉

・大畑好美（普及育成部委員）

〈スタッフ〉

・渡部誠（普及育成部長）、豊田裕浩（普及育成部U-16担当幹事）、井筒紫乃（普及育成部U-13担当幹事）、大畑好美（普及育成部委員）、岸政智（普及育成部委員）、西基世美（陸連事務局）

４．詳細スケジュール

10月26日（土）

12：00　役員集合・打ち合わせ（日産スタジアム）

12：45　選手・指導者集合

13：00　〈開講式〉（横浜市スポーツ医科学センター測定室）
開講挨拶（渡部普及育成部長）
日程説明（岸普及育成部委員）
着替え・準備

13：10　〈測定〉測定に関する説明（横浜市スポーツ医科学センター吉久武志研究員）
測定項目：身長・体重・体脂肪率・骨量・骨年齢レントゲン・足圧・走動作撮影

15：30　測定終了
ジュニアオリンピック観戦のち送迎バスにて新横浜プリンスホテルへ移動

18：30　夕食

19：30　〈測定結果説明会〉
横浜市スポーツ医科学センター吉久研究員より測定結果の説明

20：15　〈研修会〉司会：豊田普及育成部委員
飯塚翔太選手・山縣亮太選手を迎えてのディスカッション（質疑応答）・写真撮影

21：15　終了・解散

10月27日（日）

7：00　朝食

9：30　〈研修会〉
選手：栄養研修会（大畑普及育成部委員）
交流会（飯塚翔太選手・山縣亮太選手）
指導者:意見交換会(座長･渡部普及育成部長)
11：00　〈閉講式〉挨拶：渡部普及育成部長
～終了後、「ジュニアオリンピック大会兼日本選手権リレー競技大会」観戦
選手･指導者の帰省時間に合わせて順次解散
以上、全日程終了

5．まとめ

本研修会も９回目の開催となり、定着してきた研修会となった。参加条件に理解が得られた選手15名、指導者15名の計30名の参加者があった。

測定においては、横浜市スポーツ医科学センター吉久研究員やセンター員のご協力でスムーズに行うことができた。選手同士もすぐに打ち解け、楽しそうに交流するとともに、積極的に測定に取り組んでいた。また指導者も熱心に測定を見学していた。

夕食後に、まず横浜市スポーツ医科学センターの吉久氏より測定についての説明が行われた。今回も昨年同様、午後に行われた測定の結果が迅速にデータ化・資料化され、この説明会においてそれぞれの参加者にデータが配布された。そして、その個人データに基づいた即時のフィードバックがなされた。

「研修会」においては、中央大学の飯塚翔太選手、慶應義塾大学の山縣亮太選手をゲスト講師に迎えてディスカッションを行った。まず豊田普及育成部委員より両選手に「世界陸上モスクワやロンドンオリンピックに出場して感じたことは？」という質問があり「海外の選手は50～60m過ぎがとても強い。しかし、準決勝に出場してみて、自分でも世界と戦えるという自信が湧いた」（山縣選手）。「ウサイン・ボルトはとてもファンを大切にしている、そしてスタート前でもとてもリラックスして周りを盛り上げていてスゴイと思った」（飯塚選手）との回答があった。また、山縣選手が「ロンドンオリンピックよりも小学５年生の時に出場した日清食品カップの方が緊張した」という話に、小学生たちはとても驚いた様子だった。その後、小学生から選手への質問タイムになり、「モスクワの世界陸上での晩ご飯は美味しかったですか？」「大会が終わったときに自分へのご褒美はありますか？」「小学生の時、何か習い事をしていましたか？」「疲労を抜く方法は？」「加速を長く続けるには？」など専門的な質問も次々に出されたが、それぞれの選手が質問の一つひとつに丁寧に回答された。最後に、飯塚選手・山縣選手を囲み、参加者全員で記念撮影を行った。

翌日は、9時30分よりホテル内の研修室において、指導者・選手の二手に分かれての研修会を行った。

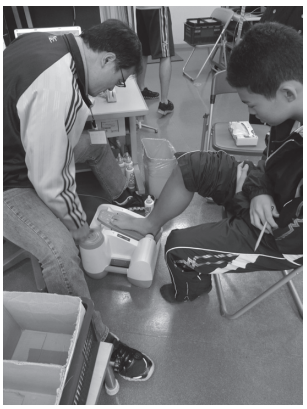
指導者研修会においては、それぞれの指導者、保護者から自己紹介と今の現場についての報告がなされた。「現場では一貫指導を行うことは難しい」「資金不足」「少子化・過疎化の影響か中学校の大会の参加者が減少傾向にある」「指導者の高齢化や専門種目の指導者がいない」などの問題点や、「ソフトボール投げと50mなどをセットにして混成競技にしてほしい（ソフトボール投げは野球部所属の選手が優勝することが多い）」「陸上競技にもJOCエリートアカデミーを実施してほしい」などの意見が出された。１時間半という時間がとても短く感じられるほど指導者の熱い思いが伝わる意見交換会となった。

選手においては、大畑普及育成部委員により「小学生のスポーツと栄養」についての講義とサンプル教材を使ってのスポーツ選手の献立作りが行われた。また、ゲストの飯塚選手、山縣選手も一緒に参加した。終了後は前日の続きとして、飯塚選手、山縣選手との交流を行った。

その後、渡部普及育成部長の挨拶で閉講式を終え、日産スタジアムで行われているジュニアオリンピック観戦となった。

今回は男子に関しては種目を100mに特定し入賞した８名、女子については、100m ４名、80mH ３名（走高跳で選抜された１名は体調不良のため当日欠席）を選抜した。走種目の小学生優秀選手の特性をみることができたと考えられる。今後も、今までに得られたデータをもとに小学生交流大会の種目の検討や追跡調査を行っていかなければならない。また、現場の現状を把握し、陸上競技人口を増やしていくためにも今後もこの研修会を継続していきたいと考えている。

最後に、測定およびデータの提供をしていただいた横浜市スポーツ医科学センターの吉久研究員とスタッフの皆さまに感謝いたします。



AIMS理事会報告

AIMS理事　澤木　啓祐

AIMSとは、国際マラソンロードレース協会（Association of International Marathon & Distance Races）の略であり、世界のロードレース主催者が加盟する任意団体である。2012年末現在337のレースが加盟しており、日本では、東京、福岡、びわ湖、長野、大阪女子、名古屋、横浜女子の日本陸連主催をはじめ18レースが会員資格を持っている。

AIMSはまた、国際陸上競技連盟（IAAF）の協力団体であり、両者が協力して成し遂げた成果として特筆されるのは、2003年のロードレース世界記録認定基準の確立である。かつてはコース計測の基準がレースによって、不統一であったことから、IAAFは、ロードレースは「世界記録」ではなく「世界最高記録」として扱っていた。高低差やスタートとフィニッシュの差の世界基準を作り、自転車計測員認定制度を確立したのは、IAAFとAIMSなのである。

私は、2010年にAIMS理事に就任し、4年の任期の3年目を迎える。AIMS理事会は、前代の帖佐寛章名誉会長を引き継いだスペインのボラオ会長以下、選挙で選ばれた2名の副会長と8名の理事（財務担当と事務総長を含む）とで構成されている。理事は、さらに運営、テクニカル、プログラムそしてマーケティングの4小委員会に分かれAIMS活動の詳細を議論することになっており、私は、マーケティング小委員会の所属である。

2013年には、AIMS規程により、理事会が2度開催された。8月には、世界選手権のマラソン実施にあわせてモスクワ、11月にはAIMS本部があるアテネが会場となった。なおアテネでは、理事会にあわせて、世界のマラソン関係者が集うレセプションAIMSガラが催され、AIMS年間最優秀選手表彰もおこなわれた。

以下、理事会の報告である。

2013年　第1回　AIMS理事会

期　　日：2013年8月15～16日

場　　所：モスクワ

主要議題：1．AIMS活動の現状報告
2．各種報告
3．AIMSグリーン＆ソーシャル賞
4．AIMSアンバサダー

概　　要：

2013年最初の理事会は、世界選手権の男子マラソンの日程にあわせてモスクワで開催された。特筆されるのは、AIMS会員レースの増加傾向である。AIMSのボラオ会長が、年ごとの増加数について資料を用いて説明したが、現在349レースにまで増えていることは、AIMSが世界に認知されていることの証明である。

今回の会議での議論のひとつは、ロードレースのコース計測費用についてであった。世界記録やIAAF大会の標準記録が認められるためには、コースは、IAAFとAIMSによって認定された自転車計測員によって距離計測がなされなくてはならない。日本には、アジアで最多の、A級3名をはじめ複数の自転車計測員がおり、さらに計測に関わる旅費や日当などは、日本陸連の規程で明確に定められている。日本の感覚では、計測費用についての問題が議論になるというのは、意外な気もするのだが、海外では自転車計測員が1人もいない国も多く、他の国から招へいしなくてはならないケースがある。さらに自転車計測を生業としている計測員もいることから、計測費用が一律でないことが問題として指摘された。AIMS加盟の大前提は、コースが、自転車計測員によって計測されていることである。計測費用が高額で承認されるコースが減ってしまうことは、AIMSの本意ではないので、計測費用についてのルール作りをすることが検討されることになった。

普及面では、AIMSは途上国の子供たちにも楽しく走るチャンスを提供しようと「チルドレンレース」というプログラムを実施している。参加した子供たちには、AIMSのロゴ入りのTシャツが渡される。2012年には、タンザニア、南アフリカ、メキシコで開催され成功を収めたことが報告された。また主旨に賛同した国連機関UNESCOと協力関係を結び、さらに活動を拡大していく予定であることも報告された。

世界では、ホームページを検索すると7000ものレースが存在するという。AIMS加盟のレースは増えているとはいえ5％にすぎない。AIMSの活動を知ってもらい、加盟数を増やすことを目的に、メールアドレスが確認できた5000レースにメールマガジン配信をはじめている。英語を母国語としないレースへの配慮も今後の検討課題となる。

2013年　第2回　AIMS理事会

期　　日：2013年11月7～8日

場　　所：アテネ

議　　題：1．AIMS活動の現状報告
2．各種報告
広報／機関誌／テクニカル／会員／財務／マーケティング／ホームページ／チルドレンズレース／AIMSミュージアム／ガラ／総会

概　　要：

2013年、2回目のアテネでの理事会は、モスクワの理事会での決定事項の進捗状況の確認が中心であった。

AIMSメンバーのレース数は、毎月のように増加していることが報告された。

マーケティング面では、世界でヨーロッパやアジアなど地域ごとに「地域マーケティング責任者」を任命することが決定されたことで、よりきめ細かなスポンサー対応が期待される。

前回の理事会で承認されたAIMS公式ホームページを現在の英語から多国語にする試みについては、まだ実現していないが、少なくとも、トップニュースについては、近い将来、複数言語での閲覧が可能となる。その中には、日本語や中国語などアジアの言語が含まれることが確認されており、AIMSのアジア重視の姿勢が鮮明となっている。

またさらなる会員増の試みとして、会員申請書も、現在の英語、フランス語、スペイン語、ロシア語から、より多くの言語バージョンを用意することがモスクワの理事会で承認されている。日本からより多くのレースがAIMSに参加しやすくなるよう、すでに日本国内で流布しているAIMS会員であることのメリット、入会案内及び申込書の日本語訳を、AIMSのホームページに掲載することを提案し全理事の賛同を得ることができたので、近日中にアップされることになる。AIMSのホームページはつぎの通り。

http://www.aimsworldrunning.org/

もうひとつ、重要な議題となったのは、来年5月に南アフリカのダーバンで開催されるAIMS総会の際に合わせておこなわれるシンポジウムの内容であった。アフリカが会場であることのメリットを最大限に生かし、ケニア、エチオピア、タンザニア出身の著名な元ランナーを招いた講演が目玉となる。ボストンマラソンを連覇したケニアのイブラヒム・フセイン氏やケニア最初のオリンピックメダリスト、キプチョゲ・ケイノ氏らが候補となっている。

また、ボストンマラソンでの事件を教訓に、マラソン大会での安全対策もテーマのひとつとなる。レースの安全対策は、世界のレース主催者にとって重要な関心事であるが、今回、アテネでもAIMSガラに先立つ特別講演に、ボストンマラソンの当事者であるレースディレクターが招かれていた。ボストンは、学園都市であり、大学病院など医療施設が多いことで有名だが、事件発生がちょうど、病院の当直と日勤の交代時間であったために、通常の倍の医療スタッフが複数の病院にいたことが、人的被害を最小限に食い止めることにつながったのだという、日本の報道では知ることがなかった秘話も紹介された。

AIMSは、世界の主要レースが加盟する親睦団体の要素をもつことで、レース間の情報交換という大きなメリットがあるが、近年では、年々増加する加盟数を背景に様々な提言をIAAFや世界のレース関係者に発信できるという意味で、ますます重要な位置を占めるようになってきているように感じている。

AIMS理事会は、2014年には、5月27～28日と31日に南アフリカのダーバン、11月6～7日にアテネで開催される予定である。

IAAF RDC北京 IAAF自転車計測員セミナー参加報告

施設用器具委員会 全国区域技術役員　大聖　陽平

国際陸上競技連盟（IAAF）は、世界各地での陸上競技普及を目的として、地域ごとに普及拠点としての地域普及センター（RDC）を設け、指導法、役員養成などのセミナーを定期的に実施している。アジア地域には、北京とジャカルタにRDCがあり、今回、北京センターで、ロードレースの距離計測を担う自転車計測員セミナーが開催されることになった。参加対象は、東アジアを中心とした各国の、「初めて」自転車計測を経験する者であった。

日本陸上競技連盟には、同様のセミナー開催資格を保持するIAAF・A級自転車計測員、平塚和則・施設用器具委員会委員長がおり、これまでも定期的に自転車計測員セミナーを開催し、最初のレベルであるC級計測員を複数認定してきた実績がある。今回の北京でのセミナーは、アジアにもう1人いる香港の講師資格保持者が講師で、講師資格を持たない国々の参加を対象とするものであったが、施設用器具委員会は、世界的な自転車計測の傾向把握及びアジア各国の計測関係者との情報交換を目的に、出席者を選考し、C級既得者であり全国区域技術役員の大聖陽平氏（北海道陸協）を派遣することとした。

以下、大聖氏の参加報告である。

名称：IAAF自転車計測員セミナー

1　講師：Wang-tak FUNG氏（香港）

2　参加人数と国・地域：12名　韓国（1名）、チャイニーズ・タイペイ（2名）、モンゴル（1名）、ベトナム（1名）、香港（1名）、朝鮮民主主義人民共和国（2名）、中国（3名）、日本（大聖陽平）

3　日程及び開催場所：2013年10月10～15日
IAAF RDC北京（北京体育大学内）

4　セミナーの概要

（1）自己紹介

雰囲気に慣れるよう、講師をはじめ氏名、国籍、自分の職務、このセミナーに望むことを各人通訳を介して発表。ほとんどが自転車計測未経験者で、経験者は日本と韓国の2名のみであった。

（2）自転車計測員としての立場及び目的

「自分たちはマラソンコースを測る立場として距離を間違えないよう、また、誤差がないよう計測をする必要があり、それには、体力の維持、自転車計測員としての知識をしっかりと身に着けることが大切である」と講師から説明があった。

（3）計測に必要な道具

・自転車
・身を守るもの（ヘルメット、ビブス等）
・カリブレーションコース設定のためのメジャー、テープ
・工事用の鋲（マーキング用）
・チョーク　等

（4）カリブレーションコースの設定

・300mが理想的な距離であると講師。IAAFのガイドラインでは、「500mが最適であり300mは最短の距離である」と記している。講師であるFUNG氏は、アジア地域の道路事情に配慮して300mを最適と説明したものと推察される。なお日本では400mを基準としている。
・起伏がなく、本コースと同じ状況下（路面等）で設定するのが望ましい。
・日本のように検定メジャーはなく、通常量販されているスケールで設定する。日本で考慮される巻尺恒差の考え方はなかった。
・温度補正について、（平均の長さ）［1＋（平均温度－20）×0.0000116］とする。日本では、熱膨張係数0.0000115を採用しており、IAAFも了解済み。
・計算式にもとづき温度補正の早見表が用意されており距離の修正を行う。
・計測方法には、日本とセミナーとで相違点があった。日本では、50mの検定メジャーに10kgのテンションをかけ、2回計測（或いは、3回…計測）であるが、セミナーでは、量販の50mメジャーに10kgのテンションをかけ、1回計測（往復）であった。計測回数については、IAAFのガイドラインでは、2往復となっているので、今回は、時間の関係で割愛されたようである。

（5）ジョーンズカウンターの取り付け

・自転車の構造（仕組み）を理解することも重要と講師。

5　実技

・講師の設定したコースを距離計測。
・定められたポイントにそれぞれマーキングを落としていく。
・コースを最短で走ることが大切であり、まっすぐ（ふらつかないで）走る必要がある。
・計測に使うタイヤの空気圧は、カウント数に影響されるため一定でなくてはならない。
・自分の身体に適した自転車を使用、選択すること。

6　計測報告書

・報告書の書き方についての講義は今回おこなわれなかった。

7　その他

（1）計測する人数

日本では、通常3名で行うが、今回講師のFUNG氏は1人で計測を行うとのこと。IAAF規則は、世界記録について定めた260条で、道路競走のコースはA級またはB級自転車計測員「1人以上」で計測すればよいとしているが、世界記録が樹立された際には、1人で計測されたコースは別のA級計測員により再計測が必要となる。

（2）時間と温度

計測の際は、時間と温度を計り記録するが、ポイント毎に温度を計るのは、日本のみのようであった。

8　所感

このたび、自転車計測員として貴重で素晴らしい経験の機会を与えていただき、大変感謝しております。

会話において多少の不安を抱えながら、講習会に臨みましたが、通訳を通じて皆さんの親切な対応に助けられ、無事に講習会を終了することができました。

5日間の講義及び実技講習でしたが、あっという間の日程で、時間を忘れてしまうほどの内容でした。日本の計測方法との相違点もあり、環境や文化の違いによって、適した手法があることを勉強させられました。日本の計測方法は、世界に比べ、非常にきめ細かいことを知りました。

実技の途中、試験もあり、日本代表として合格点をいただきましたことは、大変光栄であります。

今後、本セミナーを受講する方々へ、自転車計測における他国との相違点を事前に理解したうえで受講すると、よりセミナーの意義を理解できると思います。

最後になりますが、このたび知り合った世界各地のみなさんと、これからも連絡を取りつつ、情報交換等をしていきたいと考えております。

また、今回の経験を活かし、自転車計測に一層貢献してきたいと思っております。

2013年度「キッズアスリート・プロジェクト 夢の陸上キャラバン隊」の開催について

事　務　局

2006年11月の東京会場を皮切りに、毎年全国各地で行っている「キッズアスリート・プロジェクト　夢の陸上キャラバン隊」。2012年度（2013年３月）までに全国55会場で26,453人の児童、延べ256人の選手が参加して行ってきました。今年度は10月からスタートし、全国６会場＋離島の全７会場で開催を予定しております。本時報では、第３回開催の隠岐の島会場、第４回開催の長野会場、第５回開催の奈良会場までの報告を行います。

■隠岐の島会場

期　　日：2013年11月1日（金）
会　　場：隠岐の島町立西郷小学校（児童数：461人）
後　　援：隠岐の島町、隠岐の島町教育委員会
運営協力：隠岐郡陸上競技協会
協　　力：アシックスジャパン株式会社、株式会社セレスポ
参加選手：短距離・飯塚翔太（中央大学）／ハードル・中村明彦（スズキ浜松AC）／跳躍・菅井洋平（ミズノ）／投てき・畑瀬聡（群馬綜合ガードシステム）

2013年度第３回キッズアスリート・プロジェクトは隠岐の島町立西郷小学校で開催され、町内の全7小学校の児童が参加し行われました。

昨年のロンドンオリンピックおよび今夏の世界選手権モスクワ大会４×100mリレーで入賞を果たした飯塚翔太選手をはじめ、ロンドンオリンピック400mH代表の中村明彦選手、砲丸投の畑瀬聡選手、走幅跳の菅井洋平選手の４名が参加しました。

デモンストレーションでは、飯塚選手が児童と対決。７ｍのハンデをものともせず、圧倒的な速さを見せつけ、余裕のフィニッシュ。続いての中村選手のハードルでは、高さをも感じさせない颯爽としたハードリングを披露。畑瀬選手の砲丸投では、雄叫びと力強い投てきに児童たちはビックリ。ボーテックス投げ対決では、畑瀬選手が大投てきを見せ、会場を沸かせました。最後は菅井選手の走幅跳。７ｍを超える大跳躍に会場からは大きな歓声があがりました。

選手によるレッスンでは、児童たちは選手の説明を熱心に聞き、「走る」、「跳ぶ」、「投げる」を体験し、普段の体育では経験できないレッスンに夢中になって取り組んでいました。

プログラムの最後は選手と５・６年生の児童がチームを組んでリレー対決！会場はこの日一番の盛り上がりを見せ、飯塚選手率いるチームが優勝しました。

閉会式後は選手と児童が一緒に給食。楽しいひと時を過ごしていました。

隠岐の島会場　ハイタッチの退場でイベント終了

隠岐の島会場　子どもたちと一緒に給食をたべる

■長野会場

日　　時：2013年11月8日（金）
会　　場：茅野市立玉川小学校（児童数：845人）
後　　援：茅野市、茅野市教育委員会
運営協力：長野陸上競技協会
協　　力：アシックスジャパン株式会社、株式会社セレスポ
参加選手：短距離・川面聡大（ミズノ）／短距離・塚原直貴（富士通）／ハードル・八幡賢司（モンテローザ）／跳躍・土屋光（モンテローザ）／投てき・村上幸史（スズキ浜松AC）

長野会場は、世界選手権モスクワ大会代表の村上幸史選手をはじめ、地元茅野市の東海大第三高校出身の塚原直貴選手、川面聡大選手、八幡賢司選手、土屋光

選手の5名が参加しました。

デモンストレーションでは塚原選手、川面選手が子どもたちを圧倒する走りを見せ、八幡選手は華麗なハードリングを見ました。村上選手はボーテックス投で広い校庭を超える大投擲を披露しました。そして土屋選手の綺麗な跳躍に、児童からは大きな拍手と歓声が沸き起こりました。レッスンでは、選手から「走る」「投げる」「跳ぶ」を教えてもらい、時間を忘れて熱心に取り組んでいました。選手と児童がチームを組んでのガチンコリレー対決では、村上選手が途中で転倒するハプニングもあり、大盛り上がりの中土屋選手率いるチームが優勝しました。

長野会場　塚原直貴選手が子どもたちに指導

長野会場　子どもたちに指導する村上幸史選手

■奈良会場

期　　日：2013年11月15日（金）
会　　場：三宅町立三宅小学校（児童数：310人）
後　　援：三宅町、三宅町教育委員会
運営協力：奈良陸上競技協会
協　　力：アシックスジャパン株式会社、株式会社セレスポ
参加選手：短距離・木村慎太郎（アシックス）／ハードル・矢澤航（法政大学）／跳躍・高張広海（日立ICT）／十種競技・右代啓祐（スズキ浜松AC）

2013年度第５回キッズアスリート・プロジェクトは奈良県三宅町立三宅小学校で全校生徒310名が参加し開催しました。

三宅小学校出身の木村慎太郎選手をはじめ、今年の日本選手権110ｍＨで優勝の矢澤航選手、走高跳で優勝の高張広海選手、今夏の世界選手権モスクワ大会出場の右代啓祐選手の４名が参加しました。

当日は天候に恵まれず、体育館での開催となりましたが、デモンストレーションでは、木村選手が児童と対決し圧倒的な速さを見せて先輩の貫禄を見せつけました。ハードルでは矢澤選手が跳び箱3段よりも高いハードルを颯爽としたハードリングで大歓声。投てきの右代選手はボーテックスを体育館の端から端まで力強い投てきで児童を圧倒。最後に跳躍の高張選手が児童の手拍子をうけて２m00、２m10をそれぞれ一回でクリアし児童を惹きつけました。

体育館の中でのレッスンは、少しスペースも限られてしまいましたが、児童たちは「走る」、「跳ぶ」、「投げる」の基本運動に一生懸命に取り組んでいました。

プログラムの最後は選手と4･5･6年生の児童がチームを組んでリレー対決！体育館と言う事で、児童も選手も皆裸足になり大奮闘。矢澤選手のチームが優勝し会場はこの日一番の盛り上がりを見せました。

閉会式後は選手と児童が一緒に給食。昼休みには、雨があがった校庭で選手も児童と一緒に遊んで過ごしました。

奈良会場　体育館でのレッスン風景

奈良会場　リレー頑張るぞ！右代啓祐選手チーム

大会観戦ガイド

平成25年度全国中学校体育大会
第21回全国中学校駅伝大会

▼日　時：2013年12月15日（日）
　　女子11時00分スタート
　　男子12時15分スタート
▼会　場：
山口県セミナーパーク・クロスカントリーコース
▼アクセス：
・JR山陽本線新山口駅から約10km（タクシー約15分）、四辻駅から約３km（タクシー約５分）
・山陽自動車道山口南I.C.から車で約５分
・中国自動車道小郡I.C.から車で約20分
▼コース：
山口県セミナーパーク・クロスカントリーコース
・男子の部（６区間18km、各区間３km）
・女子の部（５区間12km、１・５区３km、２・３・４区２km）
▼大会公式ページ：
http://www.diciotto.com/ekiden21/
▼問い合わせ先：
全中駅伝事務局（山口市立白石中学校内）
TEL 083-924-8997 ／ FAX 083-902-7007

男子第64回　女子第25回
全国高等学校駅伝競走大会

▼日　時：2013年12月22日（日）
　　女子10時20分スタート
　　男子12時30分スタート
▼会場（スタート・フィニッシュ）：
京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場
▼アクセス：西京極総合運動公園陸上競技場
・阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩５分
・京都市バス32号・73号・80号系統「西京極運動公園前」下車徒歩５分
▼区間・コース：
〈男子〉男子全国高校駅伝コース７区間42.195km
・第１区　10km（西京極陸上競技場－烏丸鞍馬口）
・第２区　３km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）
・第３区　8.1075km（丸太町河原町－国際会館前）
・第４区　8.0875km（国際会館前－丸太町寺町）
・第５区　３km（丸太町寺町－烏丸紫明）
・第６区　５km（烏丸紫明－西大路下立売）
・第７区　５km（西大路下立売－西京極陸上競技場）
〈女子〉女子全国高校駅伝コース５区間21.0975km
・第１区　６km（西京極陸上競技場－平野神社前）
・第２区　4.0975km（平野神社前－烏丸鞍馬口）
・第３区　３km（烏丸鞍馬口－室町小学校前折り返し－北大路船岡山）
・第４区　３km（北大路船岡山－西大路下立売）
・第５区　５km（西大路下立売－西京極陸上競技場）
▼テレビ放映予定：NHK総合テレビ
12月22日（日）10時05分～11時54分（女子）、
12時15分～14時52分（男子）
▼ラジオ放送予定：NHKラジオ第一
12月22日（日）10時05分～11時55分（女子）、
12時15分～15時00分（男子）
▼大会公式ページ：http://www.koukouekiden.jp/

▼問い合せ先：全国高等学校駅伝競走大会事務局
（京都府立北嵯峨高等学校）
TEL ／ FAX 075-865-2700

皇后盃 第32回全国都道府県対抗 女子駅伝競走大会

▼日　時：
2014 年1月12 日（日）12時30分スタート
▼会場（スタート・フィニッシュ）：
京都府・京都市西京極総合運動公園陸上競技場
▼アクセス：
西京極総合運動公園陸上競技場
・ 阪急電鉄京都線西京極駅から徒歩5分
・ 京都市バス32号・73号・80号系統「西京極運動公園前」下車徒歩５分
▼区間・コース：９区間42.195km
・ 第１区　　6km（西京極陸上競技場－平野神社前）
・ 第２区　　4km（平野神社前－烏丸鞍馬口）
・ 第３区　　3km（烏丸鞍馬口－丸太町河原町）
・ 第４区　　4km（丸太町河原町－北白川山田町）
・ 第５区　4.1075km（北白川山田町－国立京都国際会館前）
・ 第６区　4.0875km（国立京都国際会館前－北白川別当町）
・ 第７区　　4km（北白川別当町－丸太町寺町）
・ 第８区　　3km（丸太町寺町－烏丸紫明）
・ 第９区　　10km（烏丸紫明－西京極陸上競技場）
▼テレビ放映予定：NHK総合テレビ
１月12日（日）12時15分～
▼ラジオ放送予定：NHKラジオ第一
１月12日（日）12時15分～
▼大会公式ページ：
http://www.womens-ekiden.jp/

▼問い合せ先：皇后盃全国女子駅伝事務局
（京都新聞COM事業局内）
TEL 075-213-0367 ／ FAX 075-241-5271

天皇盃第19回全国都道府県対抗 男子駅伝競走大会

▼日　時：2014年１月19日（日）12時30分スタート
▼コース：広島市平和記念公園前を出発、平和大通り、宮島街道を西進し、JR前空駅東（廿日市市大野）前を折り返し、平和大通り、城南通りを経由、広島市平和記念公園前を決勝とする７区間、48.0kmのコース。
▼アクセス：広島市平和記念公園
・ JR広島駅から南口バス乗り場A3ホームより、広島バス24号線吉島営業所または吉島病院行き「平和記念公園」下車
・ 広島電鉄「袋町」下車徒歩５分
・ 広島電鉄「原爆ドーム前」下車徒歩５分
▼区間・コース：７区間48.0km
・第１区　7km（広島市平和記念公園前－広電井口駅東）
・第２区　3km（広電井口駅東－海老園交差点）
・第３区　8.5km（海老園交差点－宮島口ロータリー）
・第４区　5km（宮島口ロータリー－JR阿品駅南）
・第５区　8.5km（JR阿品駅南－広島工大高前）
・第６区　3km（広島工大高前－草津橋）
・第７区　13km（草津橋－広島市平和記念公園前）
▼テレビ放映予定：NHK総合
１月19日（日）12時15分～
▼問合せ先：
天皇盃全国男子駅伝事務局
TEL 082-292-0601 ／ FAX 082-292-0680
▼大会ホームページ：
http://www.hiroshima-ekiden.com/

JAAF HOKKAIDO 一般財団法人北海道陸上競技協会

〒064-0810　札幌市中央区南10条西13丁目3-22
TEL.011-520-7801　FAX.011-520-7802
http://hokkaido-rikkyo.jp/

平成25(2013)年の年度当初予定された主催競技会は、11月17日(日)厚別公園競技場内周辺コースで、道内各地から200名の小学生が参加して開催した「ちびっ子駅伝」で全ての予定の日程を終了することができました。

今年の北海道選手の活躍は、小学生、中学生、高校生、大学・社会人とそれぞれ活躍をいたしました。第29回全国小学生陸上競技交流大会では、優勝二種目・入賞四種目を果たし、第40回全日本中学校陸上競技選手権大会では、七種目に入賞を果たし、第66回全国高等学校陸上競技対校選手権大会では優勝二種目・入賞九種目の成績を残しました。

また、10月4日から行われました「第68回国民体育大会スポーツ祭り東京2013」では、4年ぶり男女総合天皇杯5位を獲得できました。今年度開催されました国際競技会にも日本代表選手として、北海道出身の選手が出場し活躍してくれました。

平成26年度は、三巡目となる全日本中学校陸上競技選手権大会が、平成27年8月札幌市厚別公園競技場で開催されるのに伴い、サブグラウンドの改修、本競技場の改修が行われます。来シーズンは春先一部の競技会を除き、全て札幌円山競技場での開催となります。この、全日本中学校陸上競技選手権大会の北海道開催のため、8月19日から愛知県名古屋市瑞穂公園陸上競技場で行われた40回大会へ北海道中体連、北海道陸上競技協会から関係者が大会視察に伺い準備を進めているところです。

JAAF IWATE 一般財団法人岩手陸上競技協会

〒020-0822　盛岡市茶畑2-8-27
TEL.019-621-8460　FAX.019-656-9006
http://long-distance.jp/iwate/

平成25年東京国体において、本県選手団がここ数年における大会の中では、素晴らしい好成績を収めることができた。特に女子の活躍が素晴らしく、皇后杯成績11位という結果を得ることが出来た。

少年女子B川村知巳選手の200m優勝、成年少年女子共通4×100mリレーで川村選手（少年女子B）・小山琴海選手（少年女子B）・土橋智花選手（少年女子A）・藤沢沙也加選手（成年女子）のオーダーで大会新記録での優勝、その他、3種目の入賞など、昭和45年の岩手国体の成績を上回ることが出来た。

平成28年、3年後の国体開催に向け、大いに弾みになったが、これからの残された年、精進・努力、好成績を期待したい。

JAAF AOMORI 一般財団法人青森陸上競技協会

〒038-0021　青森市安田字近野234-7　青森県営陸上競技場内
TEL.017-766-5457　FAX.017-782-5154
http://www.jomon.ne.jp/~arikkyo/

2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催決定、まことにおめでとうございます。

今月8月にモスクワで開催の世界陸上女子マラソンで本県出身の福士加代子選手（五所川原工業高校→ワコール）が3位に入賞し、世界大会での初めての銅メダルを獲得しました。青森陸上競技協会創立以来のことであり、陸上関係者のみならず青森県民あげて大変喜んでいます。この快挙を記念し、県陸上競技協会では盛大な祝賀会を開催しました。また、東北陸上競技協会からもお祝いを頂きありがとうございました。

11月17日の長距離記録会を最後に、今年度の主催のトラック競技会は全て終了しました。11月2日には中学生指導者の研修会を開催しました。参加者は少なかったものの日本陸連普及育成委員長の繁田進先生・普及育成委員の松田克彦先生を講師として、メンタル面と技術指導の両面にご指導いただきました。受講者一同、講師の先生には心から感謝申し上げます。

先に行われましたジュニアオリンピックでは、例年になく好成績でした。特に女子のCクラス800mで山口光選手（佃中学）さんが優勝しました。2020年の東京オリンピックに向かって大いに成長し活躍してくれることを期待しているところです。　（文責：理事長　安田信昭）

JAAF MIYAGI 一般財団法人宮城陸上競技協会

〒981-0122　宮城郡利府町菅谷字舘40-1宮城県総合運動公園内
TEL.022-767-2194　FAX.022-767-2194
http://www.miyaginet.com/mrk/

10月半ばよりロードレース中心の競技運営の中で、全国の女子大学の各地区予選から勝ち上がった19校とシード校6校、並びにオープン参加の東北学生選抜チームの計26校が出場した全日本大学女子駅伝対校選手権大会は、仙台で開催されて9年目を迎え「杜の都駅伝」の愛称として美しくも激しい戦いが繰り広げられ無事終了いたしました。

また、「がんばろう東北！松島ハーフマラソン大会」も全国より8600人と多くのランナーが参加し、まだ震災の影響が一部残るコースで各々の走りをしていただき、被災された多くの皆様に元気を与えていただき大会運営も成功裡に終了いたしました。

そして、県下の男女駅伝大会にも多くのチームの参加があり、震災の被害の大きかった石巻市・大崎市で開催いたしました。

震災で、施設・道路等まだまだ復旧の途中で厳しい環境ではありますが、被災地で市民マラソン大会・駅伝大会等のイベントを実施することで被災された多くの皆様に元気になってもらうよう運営を頑張っております。

今後は、12月15日（日）に全日本実業団対抗女子駅伝競走大会を日本三景の松島をスタート、仙台市陸上競技場ゴールのコースで27チームの参加で開催いたします。日本の女子のトップランナーの多くの選手が参加されます。本県3年目の開催です。選手の活躍を期待したいものです。

（文責：理事長　殿内信一）

陸協NEWS

JAAF AKITA 秋田陸上競技協会

〒011-0911秋田市飯島字飯島水尻454-3
TEL.018-845-0099　FAX.018-845-0099
http://akita-riku.fiw-web.net/

審判員の高齢化、新規登録者の不足により年々審判員の数が減少してきている。近い将来、大会運営に支障をきたすことが懸念され、新規審判員の確保が急務となっている。

そこで、一つの方法として高校三年生の部活動が終わっての新人戦等の大会に、高校生を補助員として活用する傍ら審判業務のノウハウを指導し興味を持ってもらう。その上で審判員を希望する生徒を募り、新規高卒審判員としての特例措置によるB級審判員として委嘱し2年間を目途に資質の向上に向けて研修を進める。

特例措置とは、審判登録は正規に行うが、登録・審判業務に関わる金銭的なことに負担を掛けないよう便宜を図る。審判業務に興味を持たれるよう新規審判員の担当者を選任し、きめ細やかな指導をする等であり、高体連・各郡市陸協の協力を得、是非実現したい。

（文責：理事長　鈴木文男）

JAAF FUKUSHIMA 福島陸上競技協会

〒960-8135　福島市腰浜町3-41
TEL.024-534-0331　FAX.024-534-0339
http://gold.jaic.org/fukushima/

トラックの競技会はすべて終了し、ロードレース・駅伝をわずかばかり残すことになりました。今年度は次年度の第98回日本陸上競技選手権大会に向け、様々な準備が始まっています。協会一丸となって、陸連よりのご指導を受けながら、選手のためにどうしたら良い競技会なのかを模索し、様々な面で一生懸命努力していく覚悟でおります。各都道府県陸協よりのご指導もお願いしたいと考えております。よろしくお願い致します。

さて、今年の県内最大の駅伝となる「第25回市町村対抗福島県縦断駅伝競走大会」が、白河市総合運動公園を7時40分のスタート、福島県庁までの16区間、95.1㎞を、53市町村の代表チーム、男女13歳から50歳台までの選手、839人が力走し、県庁に12時40分フィニッシュしました。

成績は、市の部1位は会津若松市が初優勝、町の部1位は会津美里町が初優勝、村の部は泉崎村が8回目の優勝という結果になりました。この駅伝の貢献は大きく、県内を代表する選手、日本を代表する選手も中学生の頃より走っており、普及強化につながっております。また、県民の関心も大変強いものがあります。

今後当陸協、次年度に向けた普及強化、競技運営、協会内の円滑運営を目指し、努力していきます。

（文責：理事長　佐藤勇）

JAAF YAMAGATA 一般財団法人山形陸上競技協会

〒994-0103　天童市大字川原子1445番地の2
TEL.023-657-3070　FAX.050-7561-0534
http://jaaf-yamagata.jp/

ロードレースシーズンに突入し、11月2日・3日に開催した奥羽横断駅伝は岩手県北上市から秋田県横手市を経て由利本荘市をゴールとする117km、2日間のレースで、県別対抗の部で本県チームは両日とも優勝し総合優勝と、この大会三連覇を達成しました。また、11月10日には、福島市を会場とする東日本女子駅伝が開催され13位の成績ではありましたが、3区で高校生が東北勢で唯一の区間賞を獲得しました。さらに、11月3日に、埼玉県庁から熊谷スポーツ文化公園陸上競技場間で繰り広げられた東日本実業団対抗駅伝競走大会に出場した南陽市役所チームは、三年目にして念願の13位となり、1月1日に開催される『ニューイヤー駅伝』の切符を手にするなど、明るいニュースが続き、山形県長距離界の気運も大いに盛り上がっております。この気運が新年1月に京都で開催される皇后盃都道府県対抗女子駅伝および広島で開催される天皇盃都道府県対抗男子駅伝にも弾みをつけてくれました。「雪国でもやれる！」ことを証明してくれるものと期待をしています。

さて、9月には高体連より2017年南東北インターハイの会場が三県同時に発表され、陸上競技は山形県開催となり、4年という短期間の中、大会に向けた準備と選手の強化育成を急がなければならず、各関係団体が連携して計画的に進めることになりました。さらに、2020年には東京オリンピック開催も決定したことから、山形からもオリンピック選手を出したいことと、2017年インターハイの強化を続けて行きたいと考えているところです。

（文責：常務理事　秋久保孝）

JAAF IBARAKI 茨城陸上競技協会

〒311-4151　水戸市姫子2-349-13　潮田茂様方
TEL.029-253-4661　FAX.029-291-5362
http://irk.bent.jp/

今年度のトラックシーズンも11月に入り、県内外競技会の全日程を終了しました。特筆すべき事項は、斉藤真里菜選手（土浦湖北高）が昨年に引き続き、女子やり投でインターハイ・国体・日本ジュニアを2年連続で制するという金字塔を打ち立てました。内容的にも国体と日本ジュニアでは、大会新記録を樹立しての優勝と、まさに圧巻の勝利でありました。しかし、6年後に茨城国体開催を控える本県にとって、最大の課題ともいうべき競技力向上面を考慮すると、厳しい状況は否めないところでもあります。東京国体では、成年男子400ｍで石塚祐輔選手（ミズノ）と、上述の斉藤選手が優勝を果たしたものの、天皇杯得点43点・皇后杯順位24位という成績に終わってしまいました。この結果を受けて過日選手強化委員会を開催、今年度の反省を踏まえながら今後の強化方針について話し合いが持たれました。今、我々ができること。それは少年種目の強化という点で、合意をみました。その手立ての一環として小学生を交えた強化練習会が、クラブチームの関係者や小・中学生指導者の協力のもと、今月よりスタートします。また全国大学陸上界の雄、地元筑波大学の監督・コーチの方々の出席を賜り、本県強化スタッフへの参画や、更なる支援体制の構築を図ることになりました。来るべき大会本番を見据え、着実な歩みを展開して参りたいと考えています。そして、いよいよ駅伝シーズンの到来となりました。300万県民の期待を担って、各種別の全国駅伝や、都道府県駅伝での茨城勢の活躍が、本県競技力向上への起爆剤となってくれることを願って止まないところであります。（文責：理事長　潮田茂）

事務局からのお知らせ

◇◆第22回日本陸上競技連盟トレーナーセミナー開催案内◆◇

日本陸上競技連盟医事委員会トレーナー部は、1）陸上競技における選手サポート体制の確立、2）トレーナーの意識、知識、技術の向上、3）トレーナーの地位確立、を目的として設立し、毎年、「日本陸上競技連盟トレーナーセミナー」を開催しています。第22回目の今年度は、下記の要領で開催致しますので、受講希望の方は申込方法に従ってお申込下さい。

期　　日：2014年3月28日（金）～30日（日）（3日間）
場　　所：味の素ナショナルトレーニングセンター
参 加 費：25,000円（教材費込み）
定　　員：100名（先着順）
参加資格：①現在陸上競技の現場に携わっている方（治療院・病院のみの活動では不可）
②救急法に関する資格を保有、もしくは救急法に関する講習等に参加したことがある方。あるいはセミナー開催までにいずれかの救急法の講習会を受講できる方。且つ、他人の助力なしに一人で救護活動ができる方。（特に資格提示の必要はなし）
③3日間全日程を受講できる方
受付開始：2014年1月6日（月）
締め切り：2014年1月24日（金）消印有効
※参加申込の詳細は、本連盟ウェブサイト　http://www.jaaf.or.jp/　をご参照下さい。

日本陸連 アスレティック・アワード 2013

◇◆年間表彰「日本陸連アスレティック・アワード2013」12月17日に開催！◆◇

2007年に始まった「日本陸連アスレティック・アワード」も今年で7回目を迎えます。

本会は日本選手権優勝者の栄誉を称えるとともに、国内外の大会での活躍が顕著であった競技者や、陸上競技を通じて社会に貢献した競技者、関係者を表彰することを目的として開催するものです。

表彰は、新人賞（東京運動記者クラブ選出2名／陸連選出1名）、特別賞、優秀選手賞、そしてその年の活躍が最も顕著であった競技者に贈るアスリート・オブ・ザ・イヤーの4カテゴリー。今年は誰が選ばれるのか？

受賞者は17日に発表し、オフィシャルWEBサイトでお知らせします。また次号の陸連時報でも記事を掲載します。

写真提供：フォート・キシモト

陸連時報編集委員

◇編集委員
横川　　浩（陸連会長）
三宅　勝次（陸連副会長）
友永　義治（陸連副会長）
尾縣　　貢（陸連専務理事）
原田　康弘（陸連強化委員長）
風間　　明（陸連事務局長）
高橋　克実（陸上競技マガジン編集長）

◇時報編集室責任者
森　　泰夫
◇時報編集担当
繁田　　進
石塚　　浩
木越　清信
宮田　　宏
本田香代子
森谷　真咲

陸連時報編集室
〒163-0717
東京都新宿区西新宿2-7-1
小田急第一生命ビル17階
公益財団法人日本陸上競技連盟 内
TEL 03-5321-6580
FAX 03-5321-6591
ウェブサイト http://www.jaaf.or.jp/
公式動画サイト http://japanathletics.tv/